



2024 ねん6がつごう (no. 260) **やすとしよかん**



ほんかん	10:00~18:00 (火ようび~日ようび)	でんわ 077-586-0218 ファクス 077-587-5976
ちゅうずぶんかん	10:00~17:15 (火ようび~日ようび)	でんわ・ファクス 077-589-3382
ホームページ	https://www.lics-saas.nexs-service.jp/yasu/	



こどもむけイベントのお知らせ

★ずくぼんじょ“おはなし”のおはなし会

6月8日(土) 場所: おはなしコーナー

①午後2時~(4・5才向け)

②午後2時40分~(小学生以上向け)

★おはなしの森

6月9日, 16日, 23日, 30日(日)

場所: おはなしコーナー 10時30分~

絵本やかみしばいをよみます(3歳~)

★ちっちゃなおはなしの森

6月13日(木) 11時~

場所: おはなしコーナー

赤ちゃんから楽しめるおはなし会です

★ちっちゃなおはなしの森 in 中主

6月27日(木) 11時~

場所: 中主分館

赤ちゃんから楽しめるおはなし会です

6月のとしよかんカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 やすまる広場	3	4	5	6	7	8 ずくぼんじょ
9 おはなしの森	10	11	12	13 ちっちゃなおはなしの森	14	15
16 おはなしの森	17	18	19	20	21	22
23 おはなしの森	24	25	26	27 ちっちゃなおはなしの森 in 中主	28	29
30 おはなしの森						※この日はとしよかんはお休みです

★やすまる広場スペシャルおはなし会もあるよ!

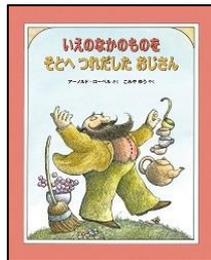
6月2日(日) 午後2時~

場所: えつらん室

『いえのなかのものをそとへつれだしたおじさん』 E/伍

アーノルド・ローベル/さく こみやゆう/やく (好学社)

ベルウッドおじさんは、とてもおおきないえにすんでいた。あるひ、おきにいりのものたちが、いえのなかにずっととじこめられているのはよくないとかんがえたおじさんは、みんなをそとへつれだしたけれど…。



『机の下のウサキチ』 K913/枡

岡田淳/作 高橋和枝/絵 (偕成社)

小学生の一平は、おじいちゃんの手元の机の下からふしぎな野原にまよいこむ。そこには、はねる力をなくしてしまったという大きなウサギのウサキチがいた。一平は、その力をとりもどすためにウサキチといっしょにたびに出る。

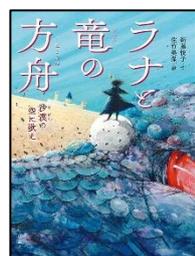


あたらしくはいったほん

『ラナと竜の方舟』 K913/ツ

新藤悦子/作 佐竹美保/絵 (理論社)

ラナは、気がつくやうに砂漠の町にいた。もともとは砂漠のオアシスだったその町は、今では人には見えない(壁気楼の町)になっていた。これからどうすればいいんだろう…?



『ひき石と24丁のとうふ』 K619

大西暢夫/著 (アリス館)

ひと里はなれた岩手県の山の中に、「ミナおばあちゃんの手作りの豆腐」という看板の豆腐屋さんがいます。そこでは90歳のミナさんが、20年間豆腐作りをしています。

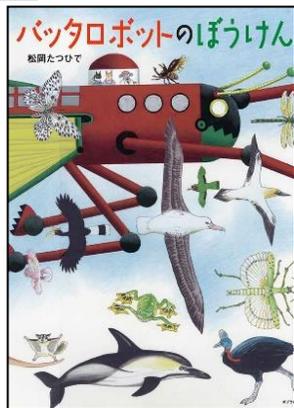


★ほかにもあるよ! 「あたらしくはいったほん」のたなをみてみてね。よやくもできます

『バッターロボットのぼうけん』

まつおかたつひで/作 (ポプラ社) E/ハヤ

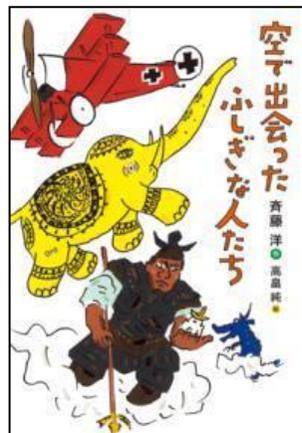
「ついにかんせいだ！」はかせがあたらしく作ったのは、バッターのかたちの大きなロボット。キッチンやトイレ、おふろもついていて、けんきゅうしつもあります。こどもたちをのせて、さあ、せかいのいきものをしらべるぼうけんりょこうにしゅっぱつ！



『空で出会ったふしぎな人たち』

斉藤洋/さく (偕成社) K913/41

わたしがふしぎなトルコ人から買ったのは、空とぶ玄關マット。いろいろふしぎなものがでてくる「カオス」とよばれる、空にある穴をさがして、玄關マットにのってとびますが…。



『そらをとびたい』

山本直洋/撮影 ちかぞう/文 (福音館書店) E/Y7

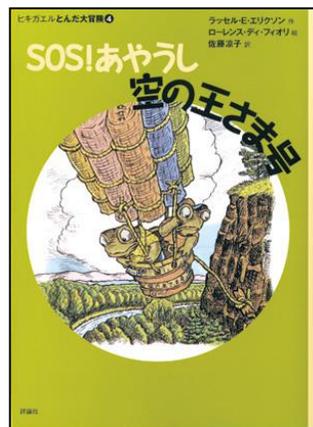


鳥のようにそらをとんだら、世界はどんなふうに見えるのだろう。背中にプロペラのついたエンジンをせおって、パラグライダーにのって、空から大地をさつえい。飛んでいるあいだにも雲や光はつぎつぎに変化していき、想像もしていなかったような景色にめぐりあう。4千メートルの高さからとった、富士山を見おろした写真もあります。

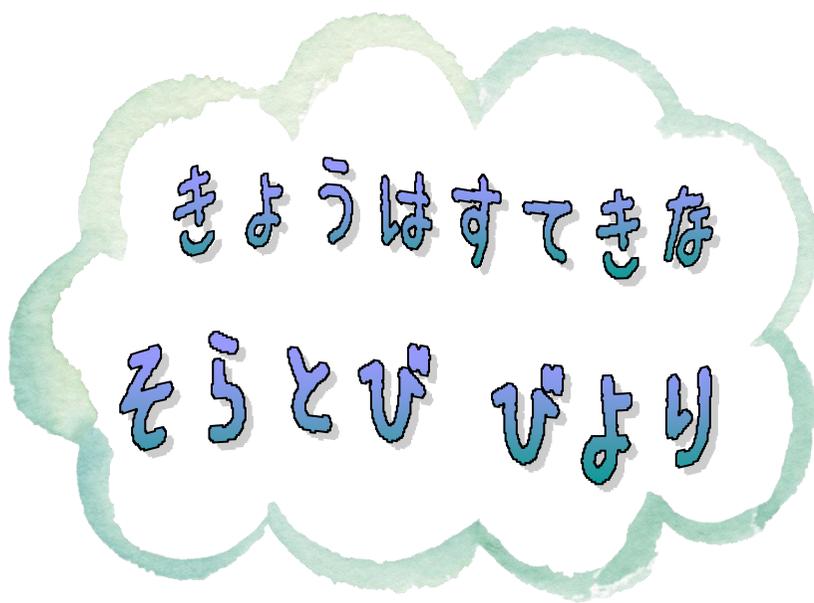
『SOS! あやうし空の王さま号 (ヒカイルとんだ大冒険4)』

ラッセル・エリクソン/作 佐藤涼子/訳 (評論社)

K933/E11



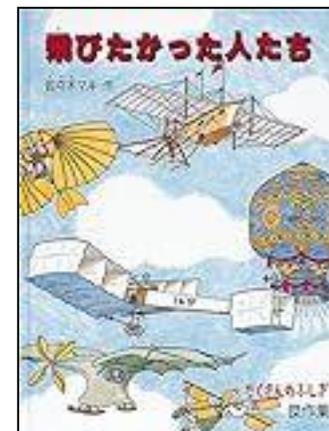
ウォートンとモートンはヒキガエルのきょうだい。あるとてもあついで、ウォートンは、空にのぼっていい気分を味わってもらおうと、モートンのために気球「空の王さま号」を作りました。ところが、つないでいたロープがほどけてしまい、ふたりをのせた気球は…。



『飛びたかった人たち』 佐々木マキ/作

(福音館書店) K538

空をとぶことは、むかしから人間のゆめでした。鳥の羽をうえたつばさをつけたり、自分でつくったそうちを身につけて高いところから飛ぼうとしたりした人たちは世界中にいました。けがをしたり、命をおとした人もいたのに、どうしても飛びたい人たちはあきらめません。おそれず、くじけず、いっしょうけんめいに考えに考え、ためしにためしてきた、飛びたかった人たちのほんとうにあったおはなし。



『栄光への大飛行』 アリス・プロヴェンセンとマーティン・プロヴェンセン/作 今江祥智/訳 (BL出版) K538

今江祥智/訳 (BL出版) K538

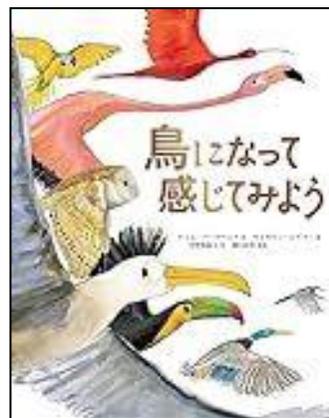
はじめて飛行船を見たときから空を飛びたいと思ったブレリオ。自分で飛行機を作り、なんども飛ぼうとしますが、あざをついたり、骨を折ったり…。イギリスとフランスの間のドーヴァー海峡を飛行機ではじめてとんだ人のほんとうのおはなし。



『鳥になって感じてみよう』

パークヘッド/作 キャサリン・レイナー/絵 水野裕紀子/訳 (化学同人) K488

空をとぶのってどんな気分？ 高い木の枝にとまったらどんな気持ちができるのかな。ふしぎに満ちた鳥たちの世界をのぞいてみよう。



『とぶ船』 ヒルダ・ルイス/作 石井桃子/訳

(岩波書店) K933/M1

ある日ピーターがうす暗い小さな店で手に入れた古い小船は、なんと魔法の「とぶ船」でした。ピーターたち4人のきょうだいは、空だけでなく時間までとべるこの船で、遠いエジプトや昔のイギリス、北欧神話の世界にまでぼうけんにでかけます。

